

グルカゴンGノボ注射用1mgのくすりのしおり

グルカゴン G ノボ注射用 1mg は、[検査] および [低血糖処置] のくすりのしおりを作成しております。

くすりのしおり

注射剤

2016年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：グルカゴン G ノボ注射用 1mg [検査]

主成分：グルカゴン（遺伝子組換え）(Glucagon(genetical recombination))

剤形：注射剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

グルカゴンは膵臓のホルモンの一つです。血糖値を上げる作用や、消化管の運動を抑える作用があります。また、成長ホルモンの分泌を促す作用があります。

通常、消化管の X 線および内視鏡検査の前処置、胃の内視鏡的治療の前処置、肝型糖原病検査、成長ホルモン分泌機能検査に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。褐色細胞腫のある方、または褐色細胞腫を疑われたことがある。インスリノーマがある。心臓が悪い。糖尿病である。肝臓に障害（肝硬変などの病気）がある。糖原病 I 型である。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は<< >>：医療担当者記入
- ・消化管の X 線および内視鏡検査の前処置、肝型糖原病検査、胃の内視鏡的治療の前処置：検査の際に、筋肉内または静脈内に注射します。
- 成長ホルモン分泌機能検査：検査の際に、皮下に注射します。

生活上の注意

- ・低血糖によるめまい、ふらつき、意識障害があらわれることがありますので、車の運転など、危険を伴う機械の操作や高所における作業には十分注意してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、頭痛、倦怠感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・気分が悪くなる、顔面蒼白、血圧低下 [ショック、アナフィラキシーショック]
- ・吐き気、全身がだるい、眠くなる [低血糖]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

自己注射剤
2016年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名: グルカゴン G ノボ注射用 1mg [低血糖処置]

主成分: グルカゴン（遺伝子組換え）(Glucagon(genetical recombination))

剤形: 注射剤、バイアル

シート記載:



この薬の作用と効果について

グルカゴンは膵臓のホルモンの一つです。血糖値を上げる作用や、消化管の運動を抑える作用があります。また、成長ホルモンの分泌を促す作用があります。

通常、低血糖の救急処置に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。褐色細胞腫のある方、または褐色細胞腫を疑われたことがある。インスリノーマがある。心疾患が悪い。糖尿病である。肝臓に障害（肝硬変などの病気）がある。糖原病 I 型である。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は<<< :医療担当者記入>>>
- ・通常、グルカゴン（遺伝子組換え）として 1mg を 1mL の注射用水に溶解し、筋肉または静脈内に注射します。必ず指示された注射方法に従ってください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で注射を止めないでください。

生活上の注意

- ・意識を失うような低血糖症を起こした場合、看護者（家族など）が注射します。低血糖が起こっていることに本人が気づかないまま、意識不明におちいることもあるので注意してください。低血糖症の処置法に十分注意し、必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。
- ・投与後に二次的に低血糖が起こることがありますので注意してください。低血糖症から回復したら必ず 20～30g の糖分をとってください。低血糖を起こしたことを必ず医師に報告してください。アルコールを飲んでいて低血糖症を起こした場合、注射しても効果がありませんので注意してください。
- ・低血糖によるめまい、ふらつき、意識障害があらわれることがありますので、車の運転など、危険を伴う機械の操作や高所における作業には十分注意してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、頭痛、倦怠感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・気分が悪くなる、顔面蒼白、血圧低下 [ショック、アナフィラキシーショック]
- ・吐き気、全身がだるい、眠くなる [低血糖]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、冷蔵庫内に、外箱に入れたまま清潔に保管してください（冷凍庫には絶対に入れないでください。）溶解後はすぐに使用してください。凍らせてしまった場合は使用しないでください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局や医療機関に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。